

# ちば通研だより No.493

千葉県手話通訳問題研究会 (発行責任者) 米田 市子 (編集者) 渡辺 正夫  
住所：〒260-0022 千葉市中央区神明町 6-2 小川ビル 2階  
FAX：043-247-1201 E-Mail：syuwa@nifty.com URL：<http://syuwa-chiba.la.coocan.jp>

## ちば通研講座 I

～ 総会終了後に「災害について」考えます ～

ちば通研講座 I の講師に片桐卓氏をお招きして開催します。元旦に発生した大地震は、能登周辺地域の多くの方々に今なお、甚大な被害を及ぼしています。災害はいつ起きてもおかしくない状態にあります。いざという時に困らないように日頃の備えはどうしたらよいのか。そして、ちば通研が毎年実施している安否確認についても、どのように対応していくことが大切なのかを聞けるのではないかと期待しています。当日は、会場・集団視聴会場・個人視聴と3つの方法で開催します。

みなさん、貴重な機会です。ぜひ参加してください！

期 日：2024年4月21日(日)  
時 間：13:30～15:30  
会 場：千葉市中央コミュニティセンター 6階 講習室4  
テーマ：「災害にそなえて」～あなたは避難所へいきますか～ (仮)  
講 師：片桐 卓 氏(SL 災害ボランティアネットワーク代表理事)  
参加費：会員・きこえない人 無料  
一般の人 1,000円(振込料金は自己負担)



3月20日時点でのちば通研の会員数は316人  
(読者会員会員数は15人)  
2024年度の目標数は330人です  
数は力！みんなで会員を増やしましょう～

全通研創立50周年記念 シンボルマーク  
愛称は「ふいーる (feel)」です。可愛がってね。

## 2024年度 定期総会について

4月がスタートしました。さあ、2024年度の開始です。

2023年度は、1月に臨時総会を開催し、決算報告を修正することになり会員の皆さまにはご理解いただきました。ありがとうございました。

2024年度の定期総会は昨年同様、4月21日（日）10時から、多くの会員の意見を聞くため下記の3つの形式で開催することにしました。

- 1 千葉市中央コミュニティセンターでの参加
- 2 地域班ごとの集団視聴会場での参加
- 3 自宅などから個人視聴での参加

詳しく説明します。

1つ目の「千葉市中央コミュニティセンターでの参加」は、人数制限があります。人数を超えた場合はお断りすることがありますのでご理解・ご協力をお願いします。

2つ目の「地域班ごとの集団視聴会場での参加」は、地域班で確保した会場に参加することになります。会場については、2024年度定期総会案内文書の裏面に記載しています。会員で地域班に所属していない人も近くの集団視聴会場に参加することは可能です。その場合は、事務局までお知らせください。

3つ目の「自宅などから個人視聴での参加」は、Zoomで視聴する場合です。この3つ目を希望される方は、インターネットから必ず申込をしてください。視聴するアドレスを届ける必要があります。

さて、会員の皆さまには、定期総会議案書をお届けしております。この議案書はどのように作成されているのか、この場をお借りして少し説明したいと思います。

12月に前年度の2023年度の議案書のデータを役員に配布します。それを元に2024年度用に記述してもらい、1月末の役員会前までに提出してもらいます。2月の役員会で読み合わせを行い、3月の役員会において最終原稿を作成します。

また、決算・予算案についても、この年度末の役員会で各部・各班より精算及び予算要求を事務局に提出するなどして作成します。

そして、議案書をサポーターズが印刷して、「らいおん工房」に持って行きます。「らいおん工房」には、折り込みの作業を事前に依頼します。そして、3月22日にちば通研だよりと一緒に議案書を会員の皆さまに郵送します。

このようにして議案書を作成しています。会員の皆さまには、この議案書をきちんと読んでいただき、定期総会に参加してほしいと考えています。

私たちの活動は役員が担ってするものではなく、会員一人ひとりが担うものだと考えています。このことは、より良いちば通研活動を実施していくために、大変重要なことだと考えているからです。

今回、決算書については、4月8日に印刷して郵送する予定であります。欠席される方は、必ず、決算書に目を通していただくようお願い申し上げます。

**会員の皆さまにお願いです。同封したハガキを4月15日(月)必着で事務所に届くよう投函してください。よろしく申し上げます。** (広報部長 渡辺 正夫)

## 「ろう重複者とともに よしえが語る！」 Vol.1

### 「私と手話との出会い」

私は昭和33年に埼玉県大宮市で生まれました。手話との出会いは、高校1年の時に県政だよりに手話講習会の募集が掲載されていたのを見つけました。一人では大変だと思い、高校の同級生を誘い、一緒に夏休みの期間、通いました。

そのときの講師は、大宮聾学校の退職された校長先生が務めております。どちらかと言うと健聴者よりの手話で文章どおりの手話でした。

その後、手話を続けようと思いましたが、当時は手話サークルがありませんでした。しかし、幸いにして「明美会館」に大宮のろう協会の人たちが毎週火曜日に集まりを開いていたので、そこに通いました。

そのとき、ろう者が机を叩いて人を呼んだり、会話の時に表現が大きくなったりしていたことが、自分のこれまでの生活にはなかったことなので、なぜか怖くて衝撃的だったことがとても印象に残っています。

ある若いろう夫婦に「家に遊びにおいで」と誘われ喜んで通いました。なぜかという手話を覚えたくて覚えたくて仕方がなかったからです。単語を覚えるのがとても楽しかったときでした。

その後、結婚をして夫の仕事の関係で現在の、稲毛に引っ越しました。

平成4年に千葉市が政令指定都市になっ

たとき、市役所の本庁と6区の区役所に手話通訳者が設置されました。市の協会とそれまで設置されていた4人が中心となり設置運動を展開した結果でした。そのとき7人の採用が決まりました。

平成4年4月1日から手話通訳者を設置するため、手話サークルに声がかかりました。私は手話通訳者として働いてみたいと強く思い、手を挙げました。7人のうちの1人です。

最初、稲毛区役所の福祉課に配属されました。そのとき、ろうの女性が相談に来所されました。その女性の顔を見たときビックリしました。それは、埼玉県に住んでいたときに家に遊びに誘ってくれた奥様でした。

訳あって稲毛区に転居され、病院に通われていました。長く糖尿病を患っていたので、教育入院をして病気への理解をしてもらうようにしました。しかし、懸命の闘病生活を続けておりましたが、残念ながら亡くなってしまいました。私にとって糖尿病は痛みが伴わないものなので、病気の症状や特性など正しく認識でき判断することを伝える難しさを知りました。

さて、次号では、親の会を結成した理由などについて代表者などから伺います。

(飯泉 よし江)

次回に続く⇒



## 特集 全通研創立50周年記念 ちば通研版 「全通研とわたし」

VOL.4

### 「仲間との出会いが、活動の継続に」

かずさ班 鈴木 幸子

学生の時、アルバイト先で見つけた“木更津手話サークルの募集記事”がきっかけで、私はろう者と出会い、手話サークルの仲間と共に活動し、全通研・ちば通研で、いろんなことを学び、地域班活動、集会の企画と参加、自治体との交渉、議会請願、署名活動など、その運動に参加してきました。

当時、学びの拠点は木更津手話サークルで、君津地域(木更津・君津・富津・袖ヶ浦)のろう者、手話を学ぶ人たちが一堂に集まっていました。

すでに全通研とちば通研会員で、千葉県の手話通訳者として活動していた佐藤文子さんからは、聴覚障害とは・手話通訳とは・手話を学ぶ者の役割・サークル活動の意義などを学び、さまざまな企業で働いていた先輩方やろう者との交流で、いろいろな見方・考え方を知ることも新鮮で、楽しかったです。このことが、手話活動を続ける基礎になったと感じています。

1980年の第13回全国手話通訳問題研究集会(大阪集会)には、千葉の仲間とともに初めて(旅行気分)で参加したものの、全国の仲間の討論にただ、すごいなー という感じでした。

1982年1月に君津地区班(現かずさ班)が結成され、「ろうあ者の生活と権利を守る・手話通訳者の公的保障ってなんだ」と、ろう者も健聴者も活発に議論をしていました。

同年8月には、第15回全国手話通訳問題研究集会(千葉集会)が、川鉄体育館(現JFE体育館)他で開催され、開会式で伊東隼祐運営委員長(当時)が、壇上で手話通訳をしていた川根薫さんのことを「会場の皆さん、川根さんの手話をよく見てください。素晴らしい通訳です」と話されたことを記憶しています。自分が褒められたようで、ちば通研の一員であることを誇りに思いました。夜の交流会では、川鉄グラウンドで大原省三氏が太鼓をたたいて、参加者がねぶた祭のハネトのように、「ラッセラー、ラッセラー」と踊って自分も輪の中に入って、あの盛り上がりは運動にかかわる仲間の熱気でした。

1983年5月の、第5回千葉県手話通訳問題研究集会(木更津市)では、実行委員としてホテルを貸し切るため交渉したり議論したり、集会の成功に自分が関わったことは自信になりました。

1996年6月の第18回千葉県手話通訳問題研究集会(かずさ集会)は、君津市で開催され、テーマは『語り合おう!「聴覚障害者福祉と手話運動」』。私は、集会の企画担当でした。



【第1回九十九里集会 1979年4月】

この50年間で、頸肩腕障害の労災認定・手話通訳士認定や民法の改正、障害者差別解消法、障害者総合支援法など法整備も進み、ろう者に関わる社会環境も大きく変化しました。

しかし、高齢ろうあ者の現状はどうでしょうか?自治体手話通訳者の役割について研修がありましたが、手話通訳者が正職員として自治体に採用されるにはどうすればよいでしょうか? 私たちには、まだまだ多くの課題があります。これから何年できるかわかりませんが、全通研・ちば通研の会員として「世の中の仕組みをよく変えるための活動」を続けていきます。



## 医療班コーナー

### 慢性腎臓病（CKD）を知っていますか？

あまり耳にすることのない病名かもしれませんが、腎臓の働きが徐々に低下していく腎臓病の総称で、新たな国民病といわれています。（糖尿病性腎症などが含まれる）患者数は1330万人（成人のおよそ8人に1人）と推定されています。

#### 慢性腎臓病（CKD）とは

- ① 腎障害（尿検査で尿蛋白が陽性）
  - ② 腎機能低下（eGFRが60未満：血液検査の血清クレアチニンから算出）  
【血清クレアチニン値、年齢、性別から算出可能なツール】  
<https://jsn.or.jp/general/check/>（一般社団法人日本腎臓学会）
- ①、②のいずれかまたは両方が長期間（3か月以上）持続する場合

#### 初期には自覚症状がほとんどない

進行すると夜間頻尿、浮腫（むくみ）、貧血、倦怠感、息切れ等の症状が出てきます。

腎臓は一度悪くなると、自然に治ることはほとんどありません。

そのまま放置しておく、末期腎不全となり人工透析、腎移植が必要になることもあります。

心不全や脳梗塞の発症リスクが高まることが分かっています。

#### こんな人は要注意

元々、腎機能は、血管の老化により加齢とともに低下します。

さらに血管を傷めるような糖尿病や高血圧は重大な危険因子です。

脂質異常症、高尿酸血症、肥満、喫煙との関係も深いので、生活習慣の改善が必要です。

#### できるだけ長く元気に暮らしていくには

慢性腎臓病に対する考え方は「安静第一」から「運動して改善へ」と変わりました。

生活習慣病の予防と同様に、普段の食事や適度な運動が大切です。

かかりつけ医と専門医の二人主治医、メディカルスタッフ（薬剤師、保健師、看護師、管理栄養士）がチームとなり、サポートしていきます。

**検診結果を確認し早期からの適切な治療を受けることが大切です。**

## 能登半島へ赴いて

私は、2023年度ちば通研に入会した。現在、千葉県との県境の東京に住んでいるが仕事の関係もあって市川班に所属して活動している。

2024年の元旦は私にとっても忘れられない一日となった。

ゆったりと家族で過ごしていた夕刻、今まで感じたことのない縦揺れに驚いた。夫の故郷である石川県で震度7の地震が発生したことをテレビのテロップで知った。震源地は輪島の東北東30km付近、マグニチュードは7.6だった。速報報道が続く中、津波警報が発令され、避難を呼びかけるアナウンサーの声がテレビで繰り返されていた。私たちはただ画面を眺める事しかできなかった。

元旦の夜、輪島市のライブカメラをスマホで見っていた私は、市街が炎で包まれている様子を見て愕然とした。消火が追いつかず、燃え広がりは明らかだった。何度も訪れた場所が火災で焼失してしまうかもしれないという怖さで眠れなかった。

私は2008年に石川県土木事務所で勤務していた夫と結婚し、石川県での生活を始めた。2011年の春に夫が東京事務所に異動になるまで石川県で暮らした。豊かな自然と風土に恵まれた石川県で様々な場所へ出かけて余暇を楽しんだ。今、都内の学校に通う中学1年生の長男は石川県で生まれた。息子がお腹にいた頃、能登半島を縦貫する「のと里山海道」の別所岳サービスエリアのスカイデッキ「能登ゆめてらす」が完成した。完成記念イベントに参加し、息子の名前が入ったプレートを植樹した桜の苗木に付けた。私達家族の大切な思い出だ。

震災の報道で見る能登半島の風景、寸断された道路、隆起した海岸線を見て、底知れぬ自然の力と無情を感じた。こんなことが起きるのだろうか？震災の被害が明らかになってゆく中、被災された方のことを思うと心が痛んだ。石川県の冬は厳しい。鉛色の厚い雲から轟く冬の雷と激しい霰は鯰起こし（ぶりおこし）と呼ばれる。ばちばちという音を立て降ってくる霰は身体に当たると痛さを感じるほどだ。結婚し、石川で初めての冬を迎えた私は車を運転中に鯰起こしに遭遇し、ばちばちという音に驚いたものだ。



【鯰起こし】

私は道路復旧業務の関係で1月28日から2月20日まで能登半島に派遣された。普段は地盤改良業務を担当しており、現地での主な業務は担当現場進捗管理・関連業者との調整等だった。

災害復旧に向けたインフラの整備のための道路補修等に従事するため現地に向かった。北陸新幹線の車窓から見る風景は秋の彼岸の墓参りの際と何ら変わっていないように思えた。だが、七尾市内の宿舎に荷物を置き、修復工事現場に向かう車中から見る光景はまさしく被災地だった。倒壊したままの家屋や隆起した道路、あちらこちらで応急工事が行われていた。震災の現状を目の当たりにし、言いようのない思いに駆られた。

私ができること、すべきことは何だろう。今は業務しかない。震災後の余震は落ち着いていたが、少しでも揺れを感じると怖かった。その気持ちを打ち消すために、業務に集中した。道路の修復・改修工事の為に様々な地域から多岐にわたる会社が現地に入っていた。災害復旧は先ずインフラから始まる。これから能登半島が元の姿に戻るまでどれくらいの年数がかかるのだろうか。隆起した港の数は多い。輪島の朝市のにぎやかな声が再び聞ける日はいつになるのだろうか。世界農業遺産の千枚田も震災の被害を受けた。若竹・真竹を用いた垣根で家屋を囲む間垣の風景で有名な地区の現状はどうなっているのだろうか。様々な思いを抱えたまま要員交代の為に、帰京した。

自宅に戻り、再び日常生活が始まった。慌ただしく過ぎる日々の中で、被災地に思いを寄せること、今後できることを自分なりに考えてゆきたいと思う。日常の夜勤をこなしながらも自分の無力さを感じていた。

2019年8月に奈良で開催されたサマーフォーラムにまだ小学3年生だった息子と共に参加した。息子は3日間のこども企画に参加し、聞こえないお子さんやスタッフの方たちと観光したり、柿の葉寿司を作ったり充実した時間を過ごさせてもらった。閉会式で息子がキャンプの思い出を手話で発表した時には3日間での成長を感じ、感動した。私は息子と別行動で3日間、初めてのサマーフォーラムで有意義な経験をする事ができた。その際に石川県の聞こえない方と話す機会があった。手話の学習を始めて間もない私に合わせ、ゆっくりと話してもらった。翌年は石川県でサマーフォーラムが開催されることもあり、私は「来年、息子と一緒に石川に行きます」と話した。2020年、日本でコロナ感染拡大が起こり、緊急事態宣言が発令され、石川県でのサマーフォーラム開催が見送られた。私も息子も致し方ないという気持ちと残念な思いで複雑だった。

能登の震災が発生してからの私は石川県聴覚障害者協会のLINE動画・ホームページを日々見るようになった。離れた場にいることができることの少ない自分が歯痒かった。

駆け出しの通訳者として今の私にできることはやはり、日々の研鑽と防災意識を高めることなのだと思う。また災害有事の行動について今後、積極的に覚悟をもって取り組んでゆきたい。現地ではボランティアの受け入れも限定的ではあるが始まっている。だが半島であるが故に移動時間がかかり、活動時間が少ないようだ。石川県では今後、ボランティアが滞在できるための宿泊施設を進めてゆくことが発表された。次回は連休等を活用し、ボランティアとして能登半島に行ければと思う。今回は行くことができなかつたが、珠洲市の聴覚障害者の方々の就労支援所「やなぎだハウス」にも是非、行きたいと思う。  
(市川班 中村ゆかり)

#### やなぎだハウス（能登就労支援事業所） ホームページより紹介

社会福祉法人石川県聴覚障害者協会が2017年8月1日、石川県内に初めて聴覚障害者に特化した就労支援継続B型事業所として「やなぎだハウス」を設立した。

聴覚障害者が集い、働く喜び、仲間との交流による喜びを通じて生活に豊かさをもたらすように支援していくことを目的にしている。



# e ~ 会報

2024年3月19日発行（第194号）  
 発行：一般社団法人全国手話通訳問題研究会  
 〒602-0901 京都市上京区室町通今出川下ル織維会館内  
 電話：075-451-4743 / FAX：075-451-3281  
 メールアドレス：NRASLI@zentsuken.net

## 聴覚障害者災害救援対策本部が被災地を訪問！

2月12～13日に、聴覚障害者災害救援対策本部から石野富志三郎本部長（連盟）、桐原サキ理事（全通研）、早川かつみ理事（士協会）の3名が、石川県聴覚障害者災害救援対策本部を訪問しました。12日に石川県聴覚障害者センターでの災害救援対策本部会議に参加し、13日は石川県健康福祉部と白山市長に表敬訪問を行いました。その後、被災した聴覚障害者が通所している「あさがおハウス」へ行き、被災者の皆さんと交流しました。あさがおハウスでは支援金を手渡し、昼食交流会では、みんなでシルバー体操・脳トレ体操も行いました。

### 【石野本部長の感想】

私の方が皆さんから元気をいただきました。自身の生活拠点を失い、先のことも考えられない状況にも関わらず、何も言わず耐えていらっしゃる。ひとりでは落ち込みそうな中、みんなが集まって励ましあっている様子を見て、仲間が集う場所があることが、素晴らしいことだと感じました。きこえない人は、手話がなければ

生きていけない。まさに「手話はいのち」です。手話によるコミュニティが確保されている拠点をもっと広げ、発展させていきたいと思えます。

※被災地の状況、支援金、義援金の振込先等はこちらを参照してください。

<https://www.jfd.or.jp/noto-eq2024>



## 代議員会ブロック別会議を開催します！

全通研の2023年度の活動を振り返り、2024年度の活動方針や予算について討議する代議員会ブロック別会議を各ブロックで開催します。代議員が集まり、議案書を基に情勢や課題を共有し、意見交換を行います。今年は今通研創立50周年を迎える年であり、これまでの活動を総括し、さらに多くの仲間とともに学び、他団体と連携して誰もが暮らしやすい社会を作っていけるよう組織の見直しや活動を強化する取り組みを進めていく予定です。各支部の意見を積極的に出して討議を深めましょう。

全体の代議員会は5月25（土）～26日（日）に神戸市で開催します。

### ☆全通研創立50周年記念グッズの紹介☆

4月以降に支部やサマーフォーラムで販売します！お楽しみに♪(^ ^)/

**1 多機能ボールペン**  
 三重ジェットストリーム4色+シャープペン  
 本体色：①ネイビー ②ペールグリーン  
 販売価格：各1000円

**2 バンダナ**  
 ＊約100％  
 ①白②黒③紺④赤⑤黄⑥青⑦紫⑧茶⑨緑⑩黄緑⑪青緑⑫水色⑬紺色⑭赤色⑮黄色⑯茶色⑰黒色⑱白色⑲グレー⑳ブルー  
 サイズ：縦32cm×横47cm  
 販売価格：600円

**3 キャンバーストートバッグ**  
 色：ナチュラル  
 ①持ち手（短）×写真左  
 サイズ：縦36cm×高さ37cm×マチ幅11cm  
 持ち手：縦2.5cm×長さ47cm  
 ②持ち手（長）×写真右  
 サイズ：縦36cm×高さ37cm×マチ幅11cm  
 持ち手：縦2.5cm×長さ30.5cm  
 販売価格：各1200円

**4 絆創膏**  
 絆創膏：5枚入  
 ①白紙色 ②ピンク ③ブルー  
 販売価格：各100円

**5 50周年記念ゆびもじクッキー**  
 （5個1セット）  
 販売価格：500円  
 サマーフォーラムinがごしま会場と50周年記念祝賀会会場で販売します  
 お楽しみに！（支部扱いはありません）

2024年度会員全員に50周年記念クリアファイルプレゼント！

# ～健康対策班～

全通研は、手話の学習をしてきた期間や手話通訳の経験の有無に関係なく、手話や手話通訳、聴覚障害者が抱えるさまざまな問題についていろいろな意見を出し合いながら、仲間と一緒に考え、学習し、向上していく団体ですよ。

皆さん毎日忙しい日々を過ごされていると思いますが、おおいに語りあいましょう。きっとその先に見えてくるものがあるはずです。

同時に、忙しいですが、健康で居るために自分の楽しい時間を作りましょう。癒して？

多肉植物植替え、動物、小鳥のお世話、料理、お菓子づくり、手作りバッグ、スポーツ鑑賞、カラオケ…等

皆さんの癒しの方法は是非教えてください！（文鳥語教えてください！）

## 【藤井伸子さんを偲んで】

今年の1月、幅広く活躍されていた藤井伸子さんの訃報のお知らせがありました。手話通訳養成講座の講師、手話通訳、地域活動等、お亡くなりになる前まで、次の世代を担う手話通訳者養成に力を注いでくださいました。

体調が悪く、痛みがあるはずなのに痛みを感じさせない講師ぶりでした。また、講義では健康管理についても欠かさず触れていました。

長い間共に活動できたこと本当に感謝しています。本当にありがとうございました。



# 読みたい見たい

2024年3月号(第113号)

**一般社団法人全国手話通訳問題研究会**  
 Tet:075-451-4743/Fax:075-451-3281  
 E-mail:NRASLI@zentsuken.net  
 URL:https://zentsuken.shop-pro.jp/  
 Facebook:全通研(zentsuken)  
 X(旧 Twitter):@zentsuken\_1



**新刊!**

第34回(令和5年度)  
**手話通訳技能認定試験**  
 (手話通訳士試験)

模範解答集

発行・編集/一般社団法人手話通訳士協会

価格 **1,595** 円(税込)



手話を学ぶ人たちの学習室  
 全通研学校講義集 ③  
**福祉国家の姿と  
 コミュニケーション労働**  
 ～発達保障の福祉の視点から～  
 神戸大学名誉教授 二宮厚美 氏

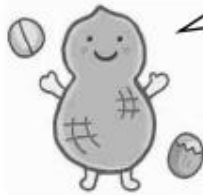
発行/図書出版 文理閣  
 判型/四六判 157頁

価格 **1,153** 円(税込)

2023年度に実施された手話通訳技能認定試験(手話通訳士試験)の試験問題と模範解答例、解説付きの解答集です。  
 2023年度受験された方の復習のほか、これから手話通訳士試験を受けられる方の個人学習、地域の学習会にも活用していただけます。

講義集シリーズの1冊。憲法の理念から始まり、「言葉」が持つ大きな役割が語られています。福祉サービスが商品のように消費される今、福祉の危機はコミュニケーションの危機と警鐘を鳴らします。研究誌167号の「かばんの中の1冊」で、おすすめ本としても紹介されています。

## 私のイチオシ …八街班…



4月。新年度スタートです！桜も満開ですね。笑顔も満開、元気いっぱい八街班メンバー3名のイチオシを紹介しまーす！！

私のイチオシは、23年続けている体操です。普段使わないところを動かし体を整えます。1週間に1時間の体操です。 N. M



私のイチオシ。  
愛用しているオリーブ石鹸です。15年以上使っています。全身、もちろん顔もしっとり感があります。私にあっていてのかもしれませんが。  
きっかけは、息子がトルコに赴任中遊びに行き、買ってきてからです。製造は中東辺りのもので今は生協で注文しています。 お試しあれ。 F M



## 私のイチオシ



私がリーダー研修会に参加していた時でした。役員の方々が何やらひそひそ話をしていたのです。何かあったのかな？と思っていましたが、後で市川さんが亡くなられたという話があり、頭が真っ白になったことを覚えています。あれからもう何年12年も経ってしまいました。

最近、噂で「市川恵美子の視点」の本をPRしているという話を聞いて、何年かぶりにもう一度読み直してみました。

日ごろの通訳活動で忘れていたことが多々あり、私はいったい何を学んできたのかと反省する事しきりでした。

- ・医療場面での通訳で、通訳者の労働目的が血圧の数値を本人に伝えるだけで止まっていたは・・・。
- ・自らの健康と暮らしを守れず、聴覚障害者の暮らしと関わっていけるのか。「視点」を読んでもう一度勉強が必要だと思いました。

K・K

## 地域班通信

わかしお班：ある日の小学2年生の孫（男の子）との会話です。孫・「『手のひらを太陽に』を手話で歌えるよ」 私・「じゃあ、一緒に歌おう。1、2、3はい！」 僕らはみんな生きている～ 私・「どこで覚えたの？学校？」 孫・「違う！ユーチューブだよ」 さすが現代っ子、スマホも使いこなしています。(K・K)

市川班：巷で俳句が流行っているようです。自分の気持ちや情景を五七五の文字に代えて伝えるなんて手話に似てるなって思ったら手話俳句があるそうです。ん？万葉集は？そう市川市には弘法寺までの大門通りに万葉集のパネルが展示されている万葉の道があります。沿道にはお店もありちょっとした散歩コースです。お帰りの際にはぜひ足跡を見下ろせるアイリンクタワーにもお立ち寄りください。

流山班：2月11日流山手話フェスタが無事盛会にて終了。今年はデフリンピックがテーマ。市議、市長はじめ、福祉部長や障害者支援課職員、スポーツ課の職員など参加いただいたが、部長が終了までいていただき、私たちのことを知ろうという姿勢ありがたい。emiko

船橋班：最近、老眼と近視で、読書が辛くなってきた。そこでスマホのアプリでラジオやポッドキャスト、オーディブルを聴き始めた。これが意外と面白い。今では家事をしながらナレーターや推しの声優が朗読する聴く本に癒され、寝る前には、眠りの瞑想を聞きながら寝落ちする日々である。これからも機械音痴おばさんなりに楽しみたい。

八千代班：「チーズはどこに消えたか？」を再読。新しいチーズを探す2匹のねずみと2人の小人。がむしゃらに探し、やがてチーズを見つけるねずみたち。探しに行くリスク・チャンスに悩んだ末、行動に出た小人へムは緻密な計画でチーズを発見。チーズはまた戻ってくると誤信しその場に居続ける小人ホー。若くはない今でも、選択の場面はあるから。

鎌ヶ谷班：ずいぶん年を重ねてしまいました。5月でとうとう82歳になろうとしています。いよいよ運転免許の返納と通訳活動に終止符を！と息子に反応を打診。さてどんな言葉が返ってくるかと思いきや、「ほんの少しでも役に立つならもう少し続けてみたら？できる範囲でサポートするから」という返事。息子の後押しの中のほんの短い言葉であと一年続けてみようという決心しました。

富里班：3団体合同研修旅行で房州方面へ行ってきました。白間津花畑で春の花を愛でた後、ランチバイキングへ移動。「これを楽しみに来た」と気合十分の声も。年齢相応？の食べっぷり！食後の野島崎灯台散策はパスする人多し。はちみつ工房で沢山のお土産を買ったかと思いきや、最後に立ち寄ったお土産処でも…(笑)。楽しい1日でした。

六つ星班：班結成から1年、班員も当初の倍になり、賑やかな班になりました。昨年度は、学習会、講演会、また地域のお祭り、聴協のクリスマス会で手話劇を発表するためみんな一生懸命！ 聴協のお手伝いも進んでやっています。いいメンバーだなあ。4月からは新班長でスタートです！ 頑張れ班長！ 頑張れ六つ星班！

千葉市班：最近、地震が多発していますね。スロースリップとか・・・知らない言葉ばかり。我が家は家族分のヘルメットを新調。目下、夫は料理の時に換気扇や棚から頭部を守る為使用しています。本当です！ そんな使用方法を笑って過ごせる日々でありますように。

白井班：スノーモンスター（樹氷）を見に行ってきました。今年は暖冬で一度とけてしまったらしく、私が見た時は樹氷の赤ちゃんが生まれたところでした。聾者の知人は事前にガイドの内容を文字に起こして欲しいと伝えてあったため、いただいた資料からは樹氷やその地域について等々、通常のガイドより遥かに多くのことを知ることができました。

市原班：先日帰省した時、市役所の税務課でろう者ご夫婦が窓越しに通訳者を介し説明を受けてるところに遭遇した。「それは家で書いて…」と通訳者。「家では書かない。ここで書きたい。」とろう者。言葉で「ようせんのかな～」と聞こえたが「ここに名前…」と優しく説明しているのを見てほっこりした。『ようせん(出来ない)』という方言も懐かしく聞いた。

成田班：の一んびり、走ってます。走っている時は色々な事を想像したり、考えたり、ひとりにやにやしていることも、あります。自分の世界に入り込んでこの時間が好きです。最近ハマっているランニングコースの小高い場所から北に筑波山、西に富士山が見えます。ふたつの山が見えた時は「ヤッター」元気がでます。

印西班：四街道で行われた“耳の日まつり”にサークル・協会の総勢12名のメンバーで3台の車に乗り合わせて参加しました。大勢でワイワイおしゃべりしたり懐かしい人達との再会に抱き合ったり喜んだりのとっても楽しい有意義な1日でした。

習志野班：3月に入り、春もまじかと思いきや寒い日が続きましたね。今日は勤務先の卒業式でした。わりと暖かくまた天気にも恵まれて穏やかな良い卒業式でした。いつからか女子の袴姿が多くみられるようになり、自分の時は進学する中学校の制服で卒業式に臨んだ記憶があります・・・(昭和の時代) 皆様の小学校卒業式の服装はどうでしたか？

八街班：八街市役所前にある小学校の正門からグラウンドに面する通りは桜並木で毎年目を楽しませてくれます。新1年生がランドセルを背負って歩く姿にも癒されますね。

#### 【お詫び】

3月号の地域班通信の印西班の記載内容に脱落がありました。訂正し、お詫び申し上げます。訂正箇所は「ニーハオ」の次に「アニョハセヨ」が入ります。

## 役員短報

日時：3月10日（日）9:30-12:10

会場：オンライン

参加者：米田、高橋、折原、原、渡辺正、  
河野、野島、上利、北原、平野、  
渡辺裕、上條、粉、山田、石鍋、

<主な議題>

○三役

- ・議案書の確認  
役員の係の担当決め
- ・2024年度行事予定確認
- ・予算書（案）について
- ・決算書送付までの流れ確認  
4月7日の役員会で確認し、8日に会員に送付
- ・会計監査日程確認
- ・会場が千葉市中央コミュニティセンター6階講習室4に決定。
- ・集団視聴会場の設置の有無について地域班に打診。
- ・4月7日役員会は、ハイブリッド型で開催。
- ・はがき、定期総会シナリオ確認
- ・申し込みフォーム内容確認

○広報部

- ・5月号掲載記事の確認
- ・ちば通研だより、データ配信への流れ  
4月号から役員を対象にデータ配信を試行

○組織部

- ・会員拡大 316人（2月29日現在）
- ・ちば通研講座I テーマ  
片桐講師に打診中
- ・安否確認状況報告を取りまとめ地域班に結果を報告

<部・班の報告>

○N-Action ちば

- ・全通研からの次世代活動についてのアンケート提出。

○研究部

- ・ちば通研集会日程調整

○ろう教育班

- ・3月17日 教育部とろう教育班の会議  
2023年度のまとめと2024年度の活動計画を協議

○事務局

- ・耳の日まつりにおける書籍販売の結果報告

## 今後の予定

○4月7日（日）役員会

N-Action ちば学習会

○4月20日（土）組織部会議

○4月21日（日）総会・ちば通研講座I

○4月23日（火）広報部会議

○4月26日（金）サポーターズ印刷日

○4月27日（土）役員会

○4月28日（日）医療班学習会

関東支部代表者連絡会議  
ブロック別会議

### 能登半島地震支援金募集

能登半島地震が起きて4月1日で3か月が過ぎる。いまだインフラ整備がままならない状態の地域があります。また、仮設住宅が要望に追いつかない状態です。

私たちがのけることで支援を続けたいと考えています。その一つが支援金を送ることだと考えております。

**みずほ銀行 江戸川橋支店 普通**

**口座番号 1511276**

**（一財）全日本ろうあ連盟**

**災害救援中央本部代表 石野富志三郎**

## お知らせ

○ちば通研ホームページにアクセス  
アドレスは以下のとおりです。

<http://syuwa-chiba.la.coccan.jp>

QRコードでホームページに  
アクセスできます。

会員専用ページは  
パスワードが必要です。

○ちば通研へのお問い合わせ  
ちば通研への連絡は下記のアドレスへ。

E-Mail : [syuwa@nifty.com](mailto:syuwa@nifty.com)

### ○原稿募集

原稿掲載にあたり、150字程度でお名前は本  
名もしくはニックネームを明記。

次号の原稿締切は4月15日(月)です。

E-Mail : [c-koho@c2ken.sakura.ne.jp](mailto:c-koho@c2ken.sakura.ne.jp)

FAX : 043-247-1201 (早朝・深夜は不可)



## 会費の納入のお願い

2024年度の会費納入をお願いしています。

会費は振込にてお願いいたします。振込先は  
以下のとおりです。なお、申し訳ありませんが  
振込手数料はご負担ください。複数人まとめて  
の納入は、全員の名前をご記入ください。

### ○年会費

会費 10,000円

読者会員 6,500円 (聴覚障害者のみ)

### ○郵便振込先

口座番号 : 00120-4-708239

加入者名 : 千葉県手話通訳問題研究会

※ゆうちょダイレクトで振込の場合は、月5回  
まで無料です。

## けいわん 110 番

### <医療的な相談窓口>

滋賀医科大学社会医学講座 (衛生学)

TEL : 077-548-2187

FAX : 077-548-2189


### <仲間を守る取組みに関する相談窓口>

FAX : 057-451-3281

\*何かありましたら、いつでも、ちば通  
研健康対策班に、ご相談ください。

FAX : 043-247-1201

### ○安否確認の報告はこちらへ

ちば通研では、2014年度から安否確認訓練  
をしています。最近は、災害はいつ起きて  
もおかしくない状況です。そのため、会員  
の安否確認をよりスムーズにするため、専  
用のフォームを開設しました。  
災害の時は、自分から  
アクセスして状況を  
ちば通研に報告してください。

<https://forms.office.com/r/5bav1Tct53>

## あ と が き

4月号には定期総会の資料を同封して  
いますので、いつもより少し早く皆様のお  
手元に届いたことと思います。議案書  
と返送用のはがきが入っているか、まず  
確認をお願いします(決算書は4月8日  
に郵送します)。はがきは4月15日(月)  
までに事務所に届くよう投函してくださ  
い。総会は21日です。皆さんにお会いで  
きるのを楽しみにしております。(K)

能登地震から3か月まだまだ復興には時  
間がかかる状況の中、最近千葉県東方沖  
地震が頻発。「スロースリップ」という聞  
きなれない言葉を聞き、不安を積もらせ  
ている方も多いと思います。地震や災害の備  
えとして私の地域では遅ればせながらサ  
ークルや通研、ろう協との連携を整えてい  
る最中です。災害が起こりませんように!  
と願いながら備えを進めています。(S)